

# 国指定 天然記念物

2013(平成25)年3月27日指定

# 石垣島東海岸の津波石群

## 津波大石(つなみうふい)

### 石垣島東海岸の津波石群(津波大石)

石垣島大浜の崎原公園内にある津波大石は、牧野清氏によって命名されました。当初は、1771年に石垣島を中心に大きな被害を出した、明和大津波に由来する津波石と考えられていました。しかし、炭素14による年代測定などを実施した結果、約3400年前や約2000年前といった年代が得られ、約2000年前の津波(先島津波)で今の場所に移動したということがわかってきました。

また、古地磁気を専門とする研究では、明和大津波の際、この石は大きくは動かなかったものの、回転するなどして地磁気が動いている可能性が指摘されています。

このようにして、科学的な検証を重ねた結果、津波石であることは間違いなく、また、明和大津波以前にも大きな津波がこの地を襲ったという教訓的な要素もある貴重な津波石です。



### 津波大石を見学なさる皆さまへ

大浜公民館から海側へ行くと、大浜小学校があります。大浜小学校の東側にある大きな石が津波大石です。比較的わかりやすい場所にあります。近くに学校があることから、お車で越しの際には、十分にご注意ください。



# 国指定 天然記念物

2013(平成25)年3月27日指定

# 石垣島東海岸の津波石群

## 高こるせ石(たかこるせい)

### 石垣島東海岸の津波石群(高こるせ石)

今回指定になったのは、高こるせ石のうち、「とふりや」というところにある、と「奇妙変異記」(明和大津波に関する古文書)に記された石です。古文書には、もともと大浜村のこるせ御嶽(黒石御嶽)にあった2つの石が、ひとつは津口北の端、もうひとつは、「とふりや」というところに移動したとあります。この古文書の記載に基づき現地を確認すると、そのとおり、津波石が確認されました。これらの石は、多くの研究者によって検証され、この古文書に書かれた石で間違いがないというお墨付きをいただいた津波石です。なお、海の中の石については、今回は指定の対象から外れています。



### 高こるせ石を見学なさる皆さまへ

「とふりや」の高こるせ石は、現在、牧場の一角にブロック塀や石積みので延長として利用されています。

塀の外側から見学はできますが、牛がいたり、周囲の畑で農作物が作られている場合もあります。

見学の際には、十分ご配慮の上、土地所有者の方にご迷惑にならないよう、ご協力をお願いいたします。

# 国指定 天然記念物

2013(平成25)年3月27日指定

# 石垣島東海岸の津波石群

あまたりや潮荒(あまたりやすうあり)

## 石垣島東海岸の津波石群(あまたりや潮荒)

このあまたりや潮荒という石も、「奇妙変異記」という古文書で確認できます。古文書には、桃里村のいなふ田(伊野田)というところに3間角の石が2個あるとあり、これは、元々、「あまたりや」という浜にあったものが、内陸に打ち上げられたと記されています。

今回は、2個のうち、1個が指定になっていますが、近接してもう1個の石も見ることができます。



## あまたりや潮荒を見学なさる皆さまへ

指定になったあまたりや潮荒は、サトウキビ畑の中にあります。

サトウキビが大きなうちは、見つらいですが、近づくと、石には多くのサンゴが付着していることがわかります。

どうしても畑の中に入りますので、見学する際には、農作物に被害を与えないよう、ご配慮ください。

# 国指定 天然記念物

2013(平成25)年3月27日指定

# 石垣島東海岸の津波石群

安良大かね(やすらうふかね)

## 石垣島東海岸の津波石群(安良大かね)

安良大かねは、通称、イファンガニとも呼ばれています。

赤錆のような岩肌はとても印象的ですが、これも「奇妙変異記」に、元々、浜にあったものが、津波で30間あまり北方へ動いたとあります。

## 安良大かねを見学なさる皆さまへ

浜に降りると、とても目立つ石なのですが、平久保の牧場内にあるため、見学する際には、車高の高い車でお出かけください。



# 国指定 天然記念物

2013(平成25)年10月17日指定

# 石垣島東海岸の津波石群

バリ石(ばりいし)

## 石垣島東海岸の津波石群(バリ石)

石垣島の北東部伊原間の海岸に、バリ石はあります。バリとは、方言で「割れ」をさし、「割れた石」という意味です。津波石は、巨大な波の力で打ち上げられ、叩きつけられるように落ちることがあるため、割れたものが多くみられます。そのため、「バリ石」と呼ばれる津波石は石垣島だけでも複数ありますが、指定されているのは、伊原間海岸にあるハマサンゴの津波石です。大きさは、 $9.0 \times 7.0 \times 3.9\text{m}$ 、推定重量216トンで、世界最大のハマサンゴの津波石として、国際的にも認められています。

このバリ石のもっとも重要な点は、世界最大のハマサンゴの津波石であること、につきますが、大きさに加えて、ハマサンゴであることがポイントです。なぜそれがよいのかというと、「年代測定が可能である」ことが理由としてあげられます。津波石の年代測定には、制約があります。すべての津波石の年代が測定できるわけではなく、特に、サンゴの付着がない石灰岩の津波石などは、特定の津波による津波石という断定はできません。

古文書にもなく、津波石としては、地域の伝承にも残っていなかったバリ石。最初に「津波石としてのバリ石」が注目されたのは、2010年のことでした。国際的な学術雑誌である『Marine Geology』に明和大津波による津波石であること、世界最大のハマサンゴの津波石であることが、東北大学の後藤和久先生らによって英文で報告されました。その後、2010年4月に、世界各国の津波研究者が集う第3回国際津波フィールドシンポジウムが宮城県仙台市で開催された際、フィールドトリップとして、様々な国の研究者が石垣島を訪れました。その大きさには、どの研究者も驚いたということです。

バリ石に関しては、 $^{14}\text{C}$ による年代測定および $^{230}\text{Th}$ による年代測定が実施され、いずれの結果も、1771年にこの地を襲った明和大津波に由来する津波石であることを示しました。明和大津波が、大きなハマサンゴを海底から打ち上げた巨大津波であった証拠です。バリ石はその資料的価値が認められ、「海岸にある不思議な石」という地域の限られた人しか知らなかったものから、国の天然記念物「石垣島東海岸の津波石群」として追加指定されました。

## バリ石を見学なさる皆さまへ

バリ石は、伊原間牧場内にあります。牧場内は道が悪く、車高の低い車だと進むことが困難です。また、見学は、潮の干満にも左右されることから、特に注意が必要です。

